

土砂災害被災地を支援

広島県代協が「保険の月セミナー」

広島県代協(旨山忠秀 会長)は11月19日午後3時から、広島市中区の損保ジャパン日本興亜広島興銀ビル4階大会議室で「保険の月セミナー」を開催した。

まず、旨山会長が挨拶に立ち、8月に起こった土砂災害への対応について



セミナーの様

「被災地での出張相談窓口で相談に来られたのは(2日間)6名と少なく、これはすでにみなさんが日ごろお客様とコ

ンタクトをとられていることが功を奏し、迅速な対応をされていた結果だ

と思います。また、被災地の支援としてはチャリティーゴルフの寄付金など今後とも思の長い支援金活動をしていきたい」

また、業法改正への対応については代理店の抜本的な改革が必要だと訴えた。さらに損害保険大学課程コ

ンサルディングコース申し込み(2015年4月分)についても損保協会と協力して認知度をあげていきたいと述べた。

続いて、損保協会中国支部委員長・桑田憲吉氏(西村敏彦事務局長代読)が挨拶。土砂災害被災地での出張相談窓口や盗難防止の活動など、地域に密着した活動への同代協の協力に対し感謝の意を表したあと、損害保険大学課程・損害保険トータルプランナーについて次のように話した。

「損害保険トータルプランナーは最高の資格であり、プロとしてこれからの知識の修得がますます必要になります。認知度

アップに努めていくとともに、損保各社にも理解を求めていきたい。募集品質の向上は業界のレベルアップにつながります」

さらに、自然災害への対応において代協との連携は不可欠、広島発のものを作り上げていきたいと述べた。

記念講演は、ロンドンオリンピックの陸上100m競技出場の山縣亮太選手の父、有限会社ニシヒロ・代表取締役山縣浩一氏の「息子、山縣亮太と100m競技」。ロンドンオリンピックや世界選手権の模様、NHKでの特集のビデオを紹介。100m競技は60m前後がトップスピードになり、あとはどれだけスピードを落とさずにいくかだという。集中的訓練理論によると、世界で戦う

のに必要な時間は1万時間、それをいかに積み重ねて行くかが大事だと話す。山縣選手は小学校4年生から陸上を始めたが、親の立場から「子どもはポテンティブな個性を判断し、陸上を続ける環境を作ってきた」と語った。